

報告事項才

青谷横木遺跡における古代の『女子群像』を描いた板絵の発見について

青谷横木遺跡における古代の『女子群像』を描いた板絵の発見について、別紙のとおり報告します。

平成28年12月26日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

青谷横木遺跡における古代の『女子群像』を描いた板絵の発見について

平成28年12月26日
文化財課

鳥取西道路整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査で、国内で2例目となる古代の『女子群像』を描いた板絵が発見されました。

- 県埋蔵文化財センターで青谷横木遺跡の出土品の詳細調査をしている過程で、7世紀末から8世紀初頭の墨で描いた『女子群像』の板絵を発見。
- 国内では、国宝「高松塚古墳壁画」(奈良県明日香村)に類例が知られるのみ。
朝鮮半島(北朝鮮南西部・平安南道南浦市)の水山里古墳壁画のモチーフと類似している。
ピョンアンナム ドナム ボ スサンリ
- 人物群像は、中国や朝鮮半島(高句麗)の墓室に描かれる画題で、墓主の生前の姿を再現した行列図と考えられ、広く古代東アジアにおける墓葬文化の交流を考えるうえで重要な資料である。
- 墓葬として人物群像を描くという、外来の文化に素養のある人物が関与したと考えられる。類例からすると、渡来系の豪族、もしくは渡来文化にゆかりの深い有力者層がこの地に存在していた可能性が高い。
- 青谷横木遺跡では古代山陰道や条理地割が確認され、木簡や木製祭祀具も数多く見つかった。今回の発見により、我が国の飛鳥時代から平安時代を代表する遺跡として評価が高まった。

1 出土遺跡等

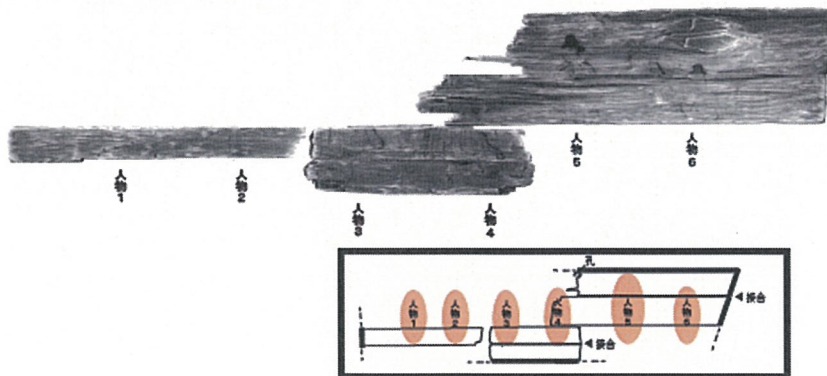
あお や よ こ ぎ

- (1) 出土場所 青谷横木遺跡(鳥取市青谷町)
- (2) 出土時期 平成27年9月19日
- (3) 調査組織 県埋蔵文化財センター

2 板絵について

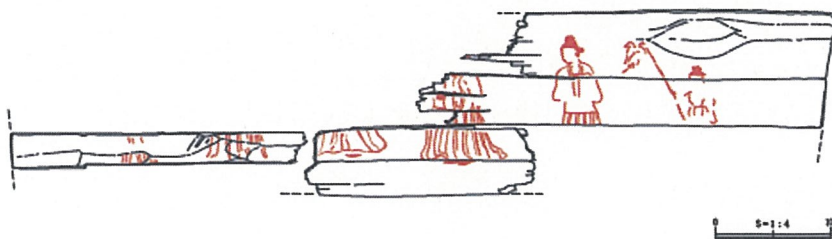
- 7世紀末～8世紀初頭築造の道路遺構(古代の官道「山陰道」)と10世紀代につくられたと考える条里遺構の交点にあたる箇所から出土。
- 少なくとも6名が左側へ歩を進める姿が確認できる。裳(も)といわれるスカートのような衣装や結び上げた髷(まげ)状の髪形、幡(ばん=儀式に使う旗)らしきものが確認でき、国宝「高松塚古墳壁画」とほぼ同じ時期(7世紀末～8世紀初頭)のものと考えられる。「山陰道」構築の時期とも齟齬はない。
- 古代の『女子群像』としては、国内では国宝「高松塚古墳壁画」に次いで2例目の出土。ただし、板絵での出土は全国初。先導者と女主人、幡を持って従う童女といったモチーフは、朝鮮半島の水山里古墳壁画(5世紀後半)と類似。

(1) 赤外線画像(奈良文化財研究所撮影)



法量：復元長70.5cm前後、幅15.5cm前後、厚さ6mm

(2) (1)から起こした実測図



3 神戸大学名誉教授百橋明穂先生（仏教美術史研究の第一人者）の指導助言内容

- (1) こうした類例は国内では、国宝「高松塚古墳壁画」しかなく、あとは中国や朝鮮半島に求める他はない。板に描かれたものは、飛鳥時代など古い時期には存在しない。
- (2) 時期は高松塚古墳やキトラ古墳（奈良県明日香村）と同じ頃（7世紀末～8世紀初頭）としか考えられない。
- (3) 類例が全て古墳の壁画に描かれていることから、本資料も葬送儀礼に用いられたものと考えられる。ただし、具体的な用途は不明。
- (4) 右から2番目の人物が大きく描かれており、より位の高い人物とみられる。後ろには、童女を付き従え、幡のようなものを持って前方に掲げている。
- (5) 国宝「高松塚古墳壁画」と比較して描写がやや稚拙。上衣が短く、裳が長いのは中国的。



国宝「高松塚古墳壁画 南壁女子群像」



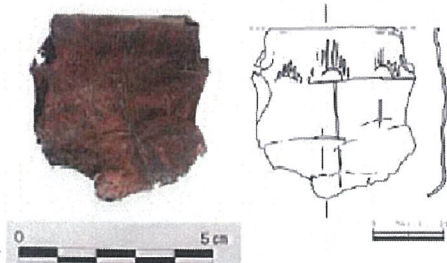
水山里古墳壁画

4 板絵の展示

平成28年12月17日（土）県埋蔵文化財センターで速報公開した。

5 関連出土品

- 中国大陸・朝鮮半島系の絵画表現（山々と木々が表現された山岳模様）がある銅板（破片）が古代山陰道と考えられる道路遺構の盛土内から出土しており、今回あわせて紹介する。
おしだしぶつ
- 厨子等に飾られた押出仏（銅板に鋳型を圧着して仏像を打ち出したもの）の一部である可能性があり、女子群像と同様の7世紀末～8世紀初頭のものと考えられる。
- 国内では法隆寺の国宝「玉虫厨子」（7世紀）など、海外では朝鮮半島（韓国西部・忠清南道扶余郡）の窺岩面外里出土の山水文罽（7世紀）などに類似した表現が見られる。
チュンチョンナムドブヨ キュナムミョンウエリ さんすいもんせん



青谷横木遺跡出土銅板片



窺岩面外里出土山水文罽

写真



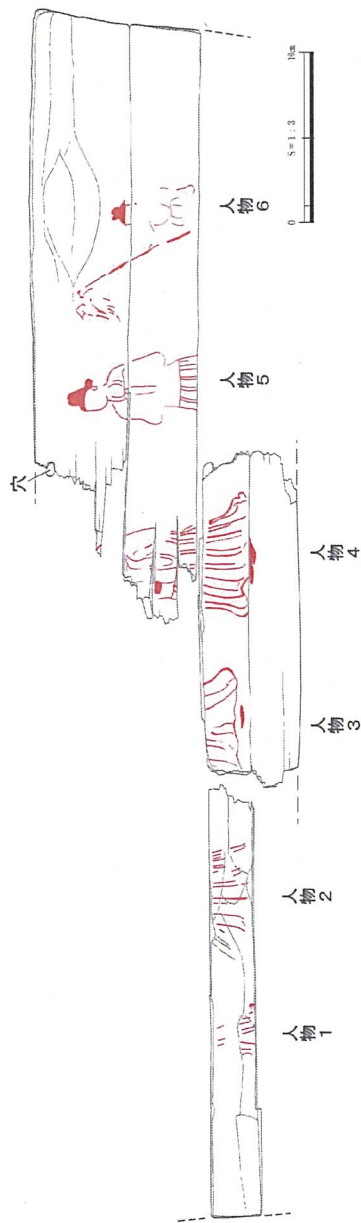
赤外線写真



復元される大きさ：長さ70.5cm前後、幅15.5cm前後、厚さ6mm

※写真撮影：奈良文化財研究所 中村一郎氏

青谷横木遺跡出土板絵 (スケールは任意)



青谷横木遺跡出土板絵復元図

青谷横木遺跡出土銅板について

- (1) 出土調査区 平成 27 年度 P10 区 (遺跡中央付近)
- (2) 出土年月日 平成 27 年 4 月 30 日
- (3) 出土状況 古代山陰道と考えられる道路遺構の盛土内から出土。
- (4) 年代 7 世紀末～8 世紀初頭
- (4) 法量 長さ 4.7cm、幅 4.2cm、厚さ 0.45～0.6mm (破片資料)
- (5) 用途 厨子等に飾られた押出仏 (銅板に鋳型を圧着して仏像を打ち出したもの) の一部である可能性がある。
- (6) 絵画内容 山岳文様が打ち出され、山々と樹木が表現されている。

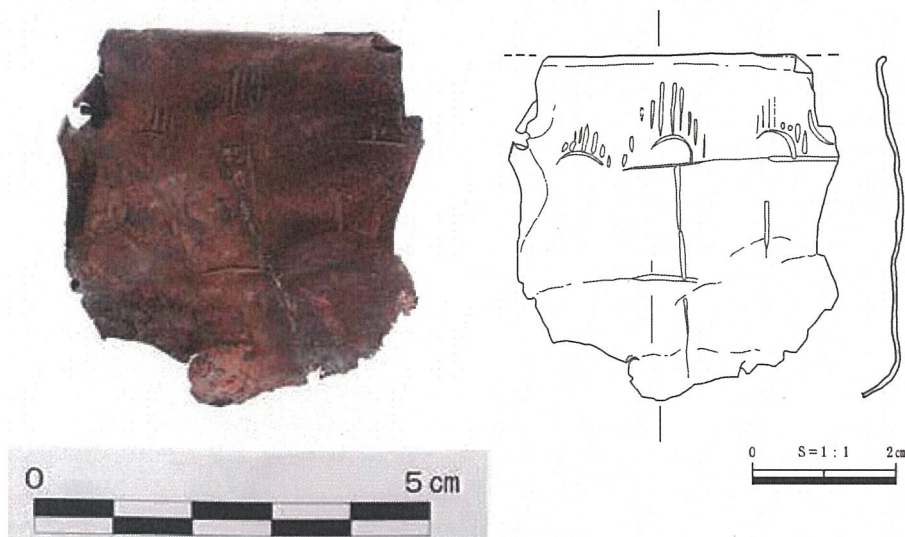


図1 青谷横木遺跡出土銅板



出典:『国立中央博物館』日本語版 通川文化社を一部改変

図2 扶余郡窺岩面外里出土山水文磚 (タイル) (百濟・7 世紀前半)